



ポスター発表

2月5日（金）11:10～12:00 体育館

<提案のポイント>

①

【総合教育センター研修】
対話による学び直しを通して
思考力・表現力を育む中学校数学科の授業改善

能代市立能代東中学校 教諭 金子 豊

中学校数学科において、生徒の知識・技能を高めるだけでなく、思考力・表現力をも育成する授業を実現したい。

本研究では、四つの学び直しの場を設定し、対話による学び直しを実現する授業を展開した。また、対話を生み出すために、ペアで説明し伝え合う活動を取り入れ、ノート作りの改善策を提案した。評価問題や検証テストの結果、振り返りや感想などから、知識・技能の高まりと思考力・表現力の育成が確認された。

②

【総合教育センター研修】
小学校算数科における「わかった，できた，
うれしい」が実感できる指導の工夫
～「学び合い整理シート」の活用を通して～

潟上市立追分小学校 教諭 高橋 裕和

児童の「わかった」「できた」に焦点を当て、「うれしい」と達成感を味わわせるために、「学び合い整理シート」を活用した。その結果、課題解決に有効な考え方が「わかってうれしい」、比較・検討で学び合ったことを「まとめ、評価・適用問題・振り返り」に生かすことが「できてうれしい」を実感し、シートそのものに表れる自己の変容により、さらに達成感を味わうことができた。そのシートの具体と活用方法を、実践を基に紹介する。

③

【総合教育センター研修】
中学校数学科において
生徒によるパフォーマンス評価を
取り入れた指導の工夫

仙北市立角館中学校 教諭 矢吹 敦

パフォーマンス評価は、教科等を横断する汎用的なスキルが生徒に身に付いているかを評価するために有効な方法である。本研究では、教師が生徒を評価するための方法ではなく、生徒が自己評価や相互評価する活動としてパフォーマンス評価を実施した。その結果、生徒は通常の授業では意識されにくい様々な汎用的なスキルを意識するようになり、自分に必要な能力を理解できるようになった。評価に用いるパフォーマンス課題や学習展開の例を、実践を基に紹介する。

④

【総合教育センター研修】
中学校理科における自分の考えを
科学的に再構成できる考察の工夫
～「思考過程の見える化」と
「付箋紙を用いた話し合い」を通して～

由利本荘市立本荘東中学校 教諭 藤丸 博

観察・実験の結果から生徒が自分で導いた結論には、根拠が乏しかったり、非科学的なものもあったりした。そこで、本研究では、自分の考えを科学的に再構成して結論を導く力を育てたいと考え、考察で思考ツールを使って思考過程の見える化を図ったり、付箋紙を用いて考えを整理・分類したりする取組を行った。その結果、自他の考えを照らし合わせ、考えを再構成して根拠のある結論を導く生徒が多く見られるようになった。考察で効果的な思考ツールや付箋紙の活用方法について、実践を基に紹介する。

⑤

【総合教育センター研修】
児童が問い、児童が答える小学校理科の授業
づくりに役立つ「エネルギー」を柱とした
内容の授業モデル集の作成

湯沢市立雄勝小学校 教諭 西村 仁

本研究では、児童が問い、児童が答える小学校理科の授業づくりに役立つように、「エネルギー」を柱とした内容の単元に焦点を当て、単元の導入やまとめに有効な教材を開発し、その製作方法や授業での活用方法について「授業モデル集」にまとめた。授業モデル集のうち、第4学年と第6学年で取り組んだ授業について、製作した教材や授業展開、児童から引き出した疑問や児童が導いた結論などとともに紹介する。



ポスター発表

2月5日（金）11:10～12:00 体育館

<提案のポイント>

⑥

〔総合教育センター研修〕
地域素材を活用した居場所づくりの推進
～生徒指導の三機能を位置付けた
道徳の時間の実践～

北秋田市立合川小学校 教諭 小武海 正彦

新たな集団の円滑な形成や、いじめ・不登校の未然防止のために居場所づくりが重要である。そこで、地域素材を資料にし、生徒指導の三機能を位置付けた道徳の時間を行った。話し合い活動における自己存在感や共感的人間関係を意識した支援が、他者を尊重することの大切さや集団のよさの体感につながった。また、地域素材を活用したことで、内容項目に迫りつつ地域への愛着や誇り、先人への憧れを抱かせることができた。

⑦

〔総合教育センター研修〕
第6学年児童の自己有用感を醸成する
異年齢交流活動の改善
～全校縦割り遠足
「松ぼっくり探検隊」を軸にして～

由利本荘市立新山小学校 教諭 佐々木 英樹

本研究は、第6学年を対象に、児童の自己有用感を醸成する異年齢交流活動の在り方について、全校縦割り活動を軸とした取組の改善とその効果を追究したものである。「関わる喜び」を実感できる縦割り遊びが自己有用感の醸成に有効であろうと考え、年間活動計画に位置付けて実施した。児童には「見える化」を主な支援とし、教師間では、事前・事後指導における支援の在り方を明確にして共通実践した。既存の異年齢交流活動を改善するポイントを、実践を基に提案する。

⑧

〔総合教育センター研修〕
「勇気づけ」を活用した
学習意欲を高める言葉かけ事例集作成
～算数科授業の観察分析を通して～

東成瀬村立東成瀬小学校 教諭 佐々木 敏

研究協力校のH小学校の児童は、毎年高い学力レベルを維持している。その背景には、学習指導の他に児童を認めたり励ましたりする指導者の言葉かけがあると考えられる。褒めるとは別の、「勇気づけ」の視点で算数科授業の言葉かけを観察分析し、H小学校のよさを探った。理解度の差がはっきり現れる算数科においても、児童が高い学習意欲を保つH小学校の授業と教育専門監の授業を「勇気づけ」の視点で併せて観察分析し、言葉かけ事例集にまとめた。

⑨

〔総合教育センター研修〕
中学校学級活動における
主体的な話し合い活動を促す板書の工夫

横手市立横手明峰中学校 教諭 高橋 真理子

どの生徒にも話し合いが「見える」「分かる」ことが主体的な話し合い活動を促す手立ての一つと考え、板書に着目した。文字の大きさ・位置・色・図・矢印を分かりやすい板書の要素と捉え、話し合いが「見える」「分かる」板書を考案し活用した。その結果、話し合いの流れや内容が分かりやすくなり、より多くの生徒が主体的に話し合い活動に参加するようになった。その板書の具体と活用方法を実践を基に紹介する。

⑩

〔総合教育センター研修〕
自閉症の特性に応じた
「基本的な運動」プログラムの作成
～特別支援学校小学部低学年における
リトミックでの実践を通して～

県立大曲養護学校 教諭 高橋 静香

秋田県知的障害特別支援学校小学部の4人に一人が自閉症児である。また、在籍児童は、生活や運動の経験不足から、身体の動きのぎこちなさや体力のなさなど、運動面に課題がある。そこで、体を動かす習慣を身に付けるために、自閉症の特性に応じた「基本的な運動」プログラムを作成した。自閉症の特性に応じた具体的な支援の仕方や配慮点、作成した「基本的な運動」プログラムを紹介する。



ポスター発表

2月5日(金) 11:10~12:00 体育館

<提案のポイント>

⑪

[総合教育センター研修]
通級による指導における
タブレット端末活用ヒントブックの作成
～発達障害のある児童生徒に対する
支援の工夫を通して～

県立秋田きらり支援学校 教諭 神田 雄樹

発達障害のある児童生徒はタブレット端末を活用することで困難さを軽減することが期待できる。しかし、教員にとっては活用イメージがつかみにくく活用が進んでいない。そこで、本研究では通級指導教室に焦点を当て、タブレット端末活用ヒントブックを作成した。その結果、困難さの背景を踏まえた指導の手掛かりとなり、困難さを補う支援や学びやすさを支える支援につながった。ヒントブックの構成や効果を、事例を挙げながら紹介する。

⑫

[県立農業科学館研修]
道徳教育との関連を図った
セカンドスクールの利用についての一考察
～「毎日が花日(はなび)」をテーマとした
実践を通して～

横手市立大雄小学校 教諭 大沢 正典

本研究は、教育施設のセカンドスクールの利用で効果が期待されている「豊かな人間性の育成」において、道徳教育等に関連付けたプログラム構成や手立ての有効性について考察することを目的とした。その結果、子どもの心に響く目標設定、評価、環境の整備を位置付けることで、子どもの内面性に根ざした道徳性の育成につながる手掛かりを得た。さらに、道徳の時間と連携することで、道徳的価値の自覚を深める可能性を探ることができた。

⑬

[あきた白神体験センター研修]
体験活動において児童のやる気を引き出す
支援の在り方に関する考察

能代市立湊城西小学校 教諭 佐藤 直子

あきた白神体験センターには海や山での自然体験や創作活動等のプログラムがある。初めての体験活動に対して苦手意識や不安をもつ子どもたちが自信を持って生き生きと取り組めるように、「ペップトーク」の考え方を参考にして、励まし関わってきた。ペップトークとは「短くて、分かりやすく、肯定的な言葉がけ」のことである。アンケートの回答や子どもたちの様子から、指導者の見方や関わり方を肯定的にすることの大切さが改めて見えてきた。

⑭

[県立岩城少年自然の家研修]
岩城少年自然の家での野外活動が、
学校生活に与える教育的効果についての考察
～目標に合ったプログラム提供と
振り返りの充実を目指して～

由利本荘市立矢島小学校 教諭 伊藤 宏一

岩城少年自然の家は、様々な体験プログラムを通して子どもの成長を促すことができる。利用する学校の目標と実態を照らし合わせたプログラムを提供し、子どもが気付きを共有できるような振り返りをすることで、協力したり進んで物事に取り組んだりする姿が見られるようになった。事前・事中・事後のアンケート結果をみると、これらのことが学校に戻ってからも続いていた。活動ごとに気付きを整理して質を高めていくことは、効果的な支援と言える。

⑮

[平成27年度ICT端末導入推進事業指定推進校]
特別支援学校における
タブレット型端末の授業活用について
～iPadを活用した授業事例を中心に～

県立能代養護学校 教諭 佐藤 篤

本研究では、ICT端末導入推進事業指定推進校として、タブレット型端末「iPad」を活用した授業の有効性を探る。具体的には全校で共有している48のアプリの学習活用状況のほか、事例研究として国語における平仮名の書字学習及び自発的な手指動作を目指した自立活動の2事例を紹介する。



ポスター発表

2月5日（金）11:10～12:00 体育館

<提案のポイント>

⑯

主体的な社会参加につながる
生活指導の在り方
～生徒一人一人の目指す姿に向けた
生活指導の仕組みづくり・検証～

県立能代養護学校 寄宿舎指導員 新山 真子

寄宿舎における「主体的な社会参加」の捉えを明確にし、生活指導の在り方を検証した。これまでの取組や指導体制は主体的な社会参加につながるものとして適切だったのか見直すとともに、「生活指導は何に基づき行われているのか」を模索し研究を進めた。今まで活用してきた様々な指導の様式や内容が、相互に結び付き十分に活用されるものになっているか、また、指導の質を高めるための評価基準や指導の観点について検証した。

⑰

【日教弘秋田支部研究論文受賞】
生徒指導に心の安心安定を
～生徒支援の在り方の工夫から～

大館市立比内中学校 養護教諭 五十嵐 芳子

生徒指導は、一人一人の生徒の健全な成長を促し、自己指導能力の育成を目指すことから本校の実態を踏まえ、三つの仮説を考えた。①教育相談活動と生徒理解の充実 ②居場所づくりと個別指導 ③家庭力の育成と小中学校連携活動の継続 これを養護教諭（生徒支援担当）の立場からできること、やらなければならないことを整理し、教室や保健室で実践できるように取り組み、小中学校連携と家庭の協力や全職員協働のもと、研究を進めた。

⑱

【いのちの教育あったかエリア事業】
豊かな体験活動を生かして推進する
「いのちの教育」
～えがおいっぱい やさしいいっぱい
いのちあったか なるせっ子～

東成瀬村立東成瀬中学校 教諭 長沢 留美子

東成瀬地区では、キバナコスモス植栽活動や被災地訪問などの体験活動を充実させ、小中連携事業を推進してきた。小・中学校とも小規模校ではあるが、たくさんの人と出会い、ふれあったことで児童生徒は多くのことを学んでいる。さらに、児童生徒が体験活動を通じて学んだことを振り返り、それをふまえて道徳の授業を行った。この事業を通して、命を大切に作る心、思いやりの心を育ててきた。

⑲

地域で様々な人と関わり、
自分のよさを発揮し、
主体的に活動する姿を育む生活単元学習

県立横手養護学校 教諭 鈴木 顕

本校中学部では、「地域で様々な人と関わり、自分のよさを発揮し、主体的に活動する姿を育む」というテーマのもと、生活単元学習の授業づくりに取り組んだ。各学年において、生徒の実態や育てたい力に応じた地域資源を生かした生活単元学習を展開することで、生徒が様々な人からの称賛や感謝を得て自信を高めたり、自分の得意なことや興味を生かして、主体的に活動に向かったりする姿を育むことができた。

⑳

【いのちの教育あったかエリア事業】
いのちの教育の充実を図る
校種間連携の在り方
～小中連携を軸とした推進体制づくりから～

由利本荘市立新山小学校 教諭 正木 節

生命尊重を中心とした道徳教育を「いのちの教育」として推進し、新山小学校と本荘北中学校、家庭、地域が連携しながら、地域社会全体で命の大切さについての認識を深めることをねらいとして、本年度、「いのちの教育あったかエリア事業」に取り組んできた。道徳教育連絡協議会や道徳の授業の相互参観、合同指導案検討会、地域人材を活用した体験活動や講演会など、小中連携を軸として道徳教育に取り組んだ実践を紹介したい。